

## ピリピ人への手紙 第2章 5節

「あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。」

獄中からの手紙です。喜びの手紙と言われるものです。この二つをとっても不思議な手紙と言えないでしょうか。身に襲い掛かる危険が常にある渦中で筆を執るのです。したためる内容の全体から見られる特徴が、喜びの言葉でちりばめられています。

通常なら、辛いときは内向きになりかねません。自分が置かれている悪条件に目を奪われかねません。独り言から被害妄想にとりつかれかねません。自己中毒に拍車をかけ、さらに内向き、妄想が肥大化してゆくことになりかねません。とても、喜びの言葉が、喜びが生まれるような気分にはならないでしょう。試練のときや場はさらに状況を悪くし、難しくする危険性を帯びています。

ところが、手紙の書き手は、外にいる者たちに対していうのです。獄中にある者が自由に歩き回る者たちにいうのです。自由に歩き回り、駆けずり回っていても、実は、書き手より不自由に生きています。だから、獄中の私からあなたがたに言うのです。どこにおいても、キリスト・イエスのところで歩み、語り、生きなさい。